
道德

成瀬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

道徳

【Nコード】

N7337P

【作者名】

成瀬

【あらすじ】

何があつたって大概気持ち次第でどうにかなるのなら、明るく明るく生きましょう。

時系列ではありません。

慈悲の心、拾っちゃう人（前書き）

あかるく、あかるく、あかるく

慈悲の心、拾っちゃう人

ああ、どうしようコレ

もう絶対駄目だわ

ダメ、だめ、絶対駄目。

拾っちゃいけないんだって

俺なんもみてねえし、早く帰んねえとまた怒られんだよ

「なーお、」

やかましい

うるせえって、そんな声出したってなあ

「みー、んなーお」

知ってんだからな、

その声はお前とかあいつとかそういう自分が世界の中心だと思ってるような奴らが

自分が世界の中心のままに在るために他の奴らに言う事聞かせてやろうって思ってる時に

一番簡単かつ一番自分の持っている魅力を生かした方法だと思っ
て使ってる必殺技だろーが。

ご生憎様だね、俺は幾度と無くその必殺技を 喰らって いるんだ
自然と耐性も付いて

「むうー、むうー」

いい加減にしない。

慈愛、他者への思いやりに欠ける

あの猫は結局拾ってしまった。

俺はあの必殺技に滅法弱い。

連れて帰るとあかりはわざとらしく頬を膨らませて俺をみてる。いや、そんな顔されたって……そういやこの前の犬の時もこんな顔を

「笑ちゃん、あかりが一日言ったこと覚えてる？」

ああ、犬は一昨日だったか。

今度は俺の腕の中に我が物顔で　おさまっている　白い猫に向かつて同じ顔をしながらあかりが言った。

「可愛い顔してんだろ？ あれ？ あかり猫のが好きって言ったよなあ？」

「笑ちゃん！」

わざと解らないふりしてあかりに笑いかけてやったら怒鳴られた。言いたいことは解る。「またそんなモン拾ってきて」。

「もお、拾ってきちゃってもその猫ちゃん的面倒見るの絶対あかりだよな？　あかりそれが嫌だからこの前のわんちゃんに飼いたい主人探してくれるとこに頼んだんだよ？　笑ちゃん解ってる？」

文句を言いながらもあかりはてきぱきと猫をタオルで拭いて、ソファに置いてあつたブランケットをダンボールに入れ即席猫用ベットを作つてそつと猫を入れる。

「さっすが、あかりさん」

「誰のせいよ！」

あまりの手際の良さに感嘆の声をあげたら睨まれた。
まごうことなく、俺のせいです。

なんか食べ物持ってきてと言われたので、
冷蔵庫から今朝のツナ缶を持っていく

皿に入れながら振り返るとあかりは自分の髪の毛を持って猫の顔
の前で揺らし、じゃれついてくる猫と戯れている。

だらしなく頬を緩ませて「にゃあ」なんて言いながら、目は爛々
と輝いてるし

おい、お前

「本当にうちで飼うの嫌なのか？」

「嫌なの！」

即答して髪の毛ももに戻したけど、

どうしたっていまだに猫を横目にみてる爛々とした目は隠しきれ
ないだろう。

「お前こういう可愛くってちゃっちいもんとか大好きじゃん」

「ちゃっちくない！ 小さいのが好きなの」

「ああ、お前でかいもんなあ」

ぎろり。

あかりの睨み付けをさらりと交わして猫を抱き上げ膝の上に乗せ

る。

「ちっせえなあ、手なんかこんなだぞ」

柔らかそうなピンク色の肉球を押すとまた みゃあ、と鳴いた。
思ったより可愛らしいもんだなあ。

「なによ、仲良くなっちゃって」

俺が可愛らしいと思ったのを目敏く感じ取ったらしいあかりは必
殺技を繰り出す。

甘えた声で 笑ちゃん、と意味もなく繰り返しながら、猫から俺
の興味を奪還しようと必死に

猫はあかりの足によつてどかされ、俺の膝の間には子猫と入れ替
わりにあかりのからだだが割って入った。

「どうせ、面倒なんかみれないくせに」

膨れた顔であかりがこぼす。

「俺は手一杯だからなあ」

あかりが俺をみあげる

とびっきり媚びて笑ってみせる

いい加減にしなさい。

額に唇をつけてやると目を閉じて喜ぶ

「あかりは今幸せです」って器用に顔に出す

どかされた子猫に目をやると、床においてやったツナの皿にダイブしていた。

後で洗ってやんなきゃなあ

といっても、あかりがやるんだけど。

子猫一匹面倒みれない訳じゃない、こいつが邪魔さえしなければ

あなたのものでわたしのものではないもの（前書き）

ちよんぎっちゃったの。

いいでしょう？

あなたのものでわたしのものではないもの

俺たち2人だけじゃ、危ないと思った。

2人だけじゃ、絶対壊れていくから。

何だって出来てしまうから。

お互いが望んでいることを、望んでいるままにいくらでも家の中が一番危ない。

外で皮を被っている反動で、むき出しになってしまう。だから

もう一人入れたらどうかと思った。

この子が家に来れば、家でも皮を被っていられるのだ。そのほうが絶対に、お互いに良いはず。

まともに、生きていけるはず。

「ただいま」

今日はいつもより早く帰れたなあ、なんて思いながら玄関の扉を開けて上着を脱いで靴を脱いで……異変に気づく。

あれ、あかりが出迎えに来ない。

料理をしているときはキッチンから

「おかえり」

という返事があるはず

どんなにそっと帰ってきたってちゃんと気づいて……

ああ、寝てるのか？

今まで一度も帰ってきたときにあかりが寝ていたことなんて無かったから考えていなかった。

いろいろ考えながらリビングのドアを開けて

しまった

と思った。

昨日拾ってきた子どもは、腰まで届くようなロングヘアの女の子だったはずだ。

けれど、今俺の目の前でソファに座ってテレビを見ている子どもの髪はショートカットというにも短すぎる、ベリーショートになっていた。

俺はその子の隣に座り短くなってしまった髪を撫でる

「ただいま、 雛子」

「おかえり笑ちゃん」

大きな目で俺を見ながら言う雛子は笑顔だ

朝に「いってらっしゃい」と言った時にはあった目のすぐ上までの前髪は、綺麗な形の額の上に気持ち程度に乗っているだけ
つやつや輝く長い後ろ髪も、前髪と変わらない長さに切られている。

美容院で切った、と言う様子は伺えない。

おそらく鋏で散切りにしたのだろう。

「あかり」

雛子の頭を撫でながら、声をかけた。

あかりはベランダに続く大窓の前の床にべたりと座り込んでいる。
ベランダには黒い束が散らばっている

ああ、ベランダでやったのか

「だって、 だって」

ベランダの方を向いたまま、雛子くらいの子どもが必死に甘える
ときに出すような声であかりは言った。

「雛子ちゃんの髪が長かったら、笑ちゃんが小さくって長い髪の子
が好きみたいになっちゃうでしょ？」

それじゃあ、困るもん。あかりが困るの。だってそれじゃあ」

————あかりもそうみたいでしょ？

おいしいごはん。(前書き)

おいしいごはんをつくったら、笑ちゃんが食べてくれる

家族みたい。

ごはんは大事、大事

おいしいごはん。

笑ちゃん

あかりと2人つきりでいるの、もうやんなったの？

あかりだって、もう気まずいかもしれないって、ダメかもしれないってかんじてるよ？

もっともつとダメになるかももしれないって

でもあかり学校もちゃんといってるし

お外ではきちんとした子、してるでしょう？

笑ちゃんが外の子ともお話しなさいっていうからサークルだって入ったし

アルバイトだってしてる

だいじょうぶでしょお？

これ以上おちていたりしないでしょう？

「ねえね、どうしたの？」

悩みの原因が口きいた。どうしたのじゃないし、あかりは今あんたのせいで悩んでんの。ああ、笑ちゃんなんでこんなん拾ってきたの？猫とか犬だって、あかりはぎりぎり許してきたのに

「ねえね、にいにはどこいったの」

「あかりはあんたのねえねじゃないし笑ちゃんはあんたのにいにじやない」

冷たく言い捨てた。だって今ここ他に大人居ないし、こんな小さい相手にいい顔すんの馬鹿みたいだし。

「あかりちゃん、笑ちゃんね、困ったことがあったらあかりちゃんに言いなさいって言ってた」

「あっそう。あかりは笑ちゃんから何も聞いてないよ？」

笑ちゃんはあかりにそんなこと言ってないもん。まだお仕事してるはずの時間にいきなり帰ってきて「ごめん、また拾った、今日仕事遅くなる」って言ってまたすぐ出て言っちゃったし。あかりは怒ってるの。この前の猫ちゃんだってやっと里親探してくれるところに預けたばかりだったのに、また拾ってきて

「あかりちゃん、あたしお腹すいた」

なにこの子、さっきから冷たくしてんのにずうずうしいなあ。

「笑ちゃん言ってたよ、あかりちゃんがいじわるしたら笑ちゃんがあとでおこってあげるって」

「あかり意地悪なんかしてないもん！」

なにこの子！むかつく、むかつく！得意げな顔なんかしやがって！笑ちゃんはある味の味方なんかじゃない、あかりのことあんたなんか理由で怒ったりするわけじゃないじゃない！生意気、生意気、生意気、生意気！

「あかりちゃん、ごはんつくるの上手だね」

「当たり前でしょ、笑ちゃんのために作ったやつだもん」

結局オムライス作ってやった。笑ちゃんの晩御飯作るついでに。だって言いつけるとか言ってうるさかったし、もし笑ちゃんの機嫌悪くなったら怖いし。

「あたしねえ、今日ひとりでごはんつくってたら笑ちゃんがいつしよにおいでって言ったの」

「ふーん、あんたんちどこ？」

「山岸さんちまがったところ」

「山岸さん知らないし、」

なにこの子、山岸さんって誰よ。なんでこの子でご飯つくってる所に笑ちゃんが居るの？誰か知り合いの子？まさか浮気なんて……ありえないよね笑ちゃん。

「あんたのお母さんって笑ちゃんの知り合い？」

「ううん、たぶんちがうよ、あたし笑ちゃんと会ったの今日がはじ

めてだもん」

なにそれ全然わかんない。笑ちゃん誘拐してきちゃったの？

「あんた、帰んなくていいの？」

「……うん」

どうしたんだろう、今まで頼んでもないのにぺらぺら喋ってたのに、なんか俯いてるんだけど。子どもって何考えてるかわかんないから嫌い。

「あかあさんねえ、あたしはひとりでごはんたべれるから、夜はたべてきなさいっていうの」

「それでねえ、あたしいつもコンビニでごはんつくるの」

「もういいよ、わかったから」

わかった。

わかってしまった。この子が笑ちゃんに拾われた理由。全部なんて聞かなくなっちゃってわかる。だって

「あたしね、笑ちゃんがここに連れて来てくれて嬉しかったよ」

あかりも同じ。

そういうことか、笑ちゃん、ねえ？あかりと同じだから連れてきたの？今までの犬も猫も皆そうか。なあんで気がつかなかったんだろう。なるほど、見れば見るほどあかりに似てるじゃん、大きな目、高い声、にこにこ、にこにこ機嫌伺ってる顔……腰まである長い癖毛。

ねえ、ねえ笑ちゃん。

ずっと怖くて聞け無かったんだけど、笑ちゃんはさあ

あかりだから、

拾ったんだよね？

名前の理由

あかりに笑太なんてとんでもなく明るくって能天気な名前だね、
今考えたら。

よくこんな名前つけたもんだよね、こんな萌え系アイドルみたいな名前嫌い。

頭悪そうだし、歳とったら恥ずかしいし、そういえば名前に恥じない生き方しろみたいな事中学の熱血教師が言ってたっけ。
ばっかじゃないの

自分の子供もまともに育てらんないような頭の悪い人がつけた名前に「恥じない」も何もないでしょ。

やんなっちゃうよう

でもね、あかり笑ちゃんの名前は大好き！

だあいすき！

ピロートークにしては随分長ったらしく、甘さの欠片もなく、そしてあかりの嫌いな類の話だなあと、珍しいと思った。

頭ひとつ分下、布団の中から俺を見上げてあかりが言った。

俺も自分の名前は、そういうわれれば、あんまり好きじゃなかったなあ。

とんでもなくやんちゃになる前、まだ近所でガキ大将と自ら名乗ったりする馬鹿になる前の純粹にちよつと悲しい過去を持った子供だったころの話。

先生に預かってもらうようになったころの話。

自分で言うのもあれだけど、悲しい過去もってる割には健全に、生きてたと思う。

人を羨ましく思うことはあれど、あかりのように僻んで相手の不幸を願ったり、影でひたすら泣いたりなどはした覚えはないし、あかりのように変に擦れて大人に可愛くない態度を故意に取ろうとした事もない。

ただ先生のところに住み始めたころ慣れなくて、からかわれ泣いたとき、決まって

笑太は人よりたくさん笑えるように笑太と親が名づけてくれたのだから、泣いたりするのはおよしなさい

みたいな事を言った。それだけはすんなり心に入ってこなかった。俺はそんな事親から聞かされていないし、もしかしたら先生が勝手に後付けしたのかもしれない。

本当に、もしかしたら、親が先生に伝えてくれと頼んだのかもしれない。だとしたら

どの面下げて言ってやがんだ

割と先生の言うことはよく聞いていたけれど、それだけは、子供心にも許せなくて

あの言葉で泣き止んだことは一度もない。

「笑ちゃん？」

あかりの声で回想から引き戻された。

なんだっけ？何の話だっけ？

「でね、あかりは笑ちゃんの名前はきつと特別な意味があって付けられたと思うの」

どうして、と先を促してやりながら、もしかしたらこいつも同じことを言うのかと思った。

まあ、こんな名前であの解釈の他も無いだろう。

実際自分でも思いつかないし、ただ少し面白くないからもし言ったら素直には受け取ってやるまい。
なんか意地悪してやろっかな

「笑太の笑は、あかりを笑顔にしてあげなさいって意味だよ！ぜったい」

そうくるか、というかなんかもう

「あっさーい、浅いよあかりちゃん」

ちよつとシリアスに考えてた自分が恥ずかしいだろうが
なんでえ、なんて抗議してくるあかりの頭を布団の中に沈める
でもちよつといいかもしれない、なんて考えてしまふ自分も恥ずかしい。

だってこいつの頭ん中には笑ちゃんとあかりしかない。
だからこいつが考えた名前の由来には、笑ちゃんとあかりしか出てこない。

笑太とあかりなんて、誰が見ても苦労人には見えないだろうし、しかも名前の由来がこれじゃあバカップル以外に言いようが無い。
結構じゃないか、馬鹿みたいで、とんでもなく明るくって能天気！
名前のとおりに生きているのだ、文句なんて言わせるか
先生には悪いけど、俺はきつとこれから名前の由来はこれにするんだろうなあ。

だったらあかりにも由来をあげよう。
俺一人でこんな恥ずかしい由来を背負っていくのはムカつくから
そう思って布団をめくる。

「おい、あかり」

寝てやがる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7337p/>

道德

2011年1月7日20時11分発行